



◎本會理事會

昭和十八年六月十五日午前十一時麴町區丸ノ内三丁目十二番地日本俱樂部に於て理事會を開催、水野會長、新居、佐上兩常務理事及岩澤氏、辰馬氏、岡野氏、青山氏、三浦氏、鈴木氏の六理事、青木幹事外四幹事出席、昭和十七年度事務報告、昭和十七年度歳入歳出決算報告、昭和十七年度基本財産收支決算報告、昭和十七年度特別積立金收支決算報告、資産報告を承認し、以て昭和十八年度歳入歳出總豫算、基本財産費消ノ件、特別積立金費消ノ件を附議し、之れを可決し、金子源一郎氏、山崎巖氏理事及評議員の任期滿了、中川正左氏理事を辭任、長岡隆一郎氏理事及評議員辭任の報告あり、午餐を共にして散會す。

◎第二十四回定時會員總會並評議員會

昭和十八年六月十五日午後二時、麴町區丸ノ内三丁目十二番地日本俱樂部に於て第二十四回定時會員總會並評議員會を開く。定

刻に到り水野會長議長席に就き、開會を宣して先づ同一事案に付ては總會並に評議員會を併合開催する旨を述べて議事に入る。昭和十七年度事務報告、昭和十七年度歳入歳出決算報告、昭和十七年度基本財産收支決算報告、昭和十七年度特別積立金收支決算報告、資産報告は満場一致之を承認し、昭和十八年度歳入歳出總豫算を承認す。金子源一郎氏山崎巖氏評議員の任期滿了、長岡隆一郎氏評議員辭任の旨報告す。次で評議員會に對し特別會員に内務省土木試驗所長青木楠男氏を推薦可決す。中川正左氏及長岡隆一郎氏評議員を辭任したる旨の報告あり、次に總會に對し評議員四名を互選すべき旨を告げ満場一致議長に一任に決す。議長は金子源一郎、山崎巖、青木楠男、喜安健次郎四氏を指名す。更らに評議員會に對し理事二名を互選すべき旨を告ぐ。議長一任に可決議之を可決す。議長は之れにて報告及び附議事項を終了したるを以て總會並に評議員會を閉會する旨を宣し散會す。

◎特別會員

本會に於て去る六月十五日左の通特別會員に推舉した。

内務省土木試驗所長 青木 楠男氏

◎評議員

本會に於て去る六月十五日左の諸氏を評議員に推舉した。

(重任) 金子源一郎氏

◎理事

本會に於て六月十五日左の兩氏を理事に推擧した。

- (同) 山崎 巖氏
(新任) 青木 楠 男氏
(同) 喜安 健次郎氏
(重任) 山崎 巖氏
(新任) 青木 楠 男氏

◎昭和十七年度事務報告及同年度歳入歳出決算報告並に昭和十八年度歳入歳出總豫算は左の如し

昭和十七年度事務報告

道路功績者表彰に關する件

道路功績者表彰規程に據り道路の改良、維持、修繕並に道路愛護事業の普及等に關し功績顯著なるものに對して表彰したるは神奈川、茨城、愛知、静岡、滋賀、岐阜、宮城、福島、長野、山形、秋田、島根、廣島、和歌山、徳島、宮崎の十六縣の道路工夫八十三人、個人二人道路愛護會其の他二十二團體にして相當の成績を収めたり。

道路愛護助成金交付に關する件

道路愛護事業の發達普及を奨勵せんが爲め本年度に於て始めて道路愛護助成金を交付することとなり北海道廳及各府縣へ申請方を依頼したる處北海道廳其の他三十六府縣より三十七團體の申請

あり依て審査の結果二十五團體に對し道路愛護助成金二十三團體には壹百圓づつ二團體には五十圓づつを交付せり之に對し當該府縣より感謝の意を表し來り頗る良好なる結果を得たり。

出版物に關する件

「道路職員必携」は頗る好評あるを以て之を増補刊行したるに壹千部を發賣したり又「修路工夫必携」は曩年之を刊行し各府縣に配布し尙實費を以て頒布し修路事業に資する所ありたり、本年度に於ても亦之を増刊し各府縣に配布したり。

道路工夫被服地配給に關する件

道路工夫被服不綿地の需用少からざるも之が買入は殆ど不可能なるを以て本年度に於ても企畫院及商工省當局と協議の結果日本綿スフ織物製造株式會社と契約を締結し五千反を購入し、之を實費にて北海道廳外四十一府縣に配給したる處多大の好評を博したり。

理事、評議員並に特別會員異動に關する件

理事中挾間茂、藤井眞透、田中好の三氏は任期満了し更に藤井眞透、田中好兩氏は重任し鈴木雅次、岩澤忠恭、三浦七郎、岡野昇の四氏新に就任し評議員は鈴木雅次、岩澤忠恭、和田重辰の三氏新に就任し藤井眞透、挾間茂、田中好、長谷川勝伍、大石義郎、田中廣太郎、坂本一平の七氏重任したり。

特別會員並に評議員には昭和十七年四月七日に陸軍省整備局長

吉積正雄氏同年七月九日に内務省警保局長三好重夫氏、地方局長吉井喜實氏、北海道廳長官坂千秋氏、兵庫縣知事成田一郎氏、愛知縣知事雪澤千代治氏、同年八月八日に東京市長岸本綾夫氏、同年十月三十日に朝鮮總督府司政局長新井肇氏、同年十一月十八日に内務省管理局長竹内徳治氏に委嘱したり。

弔慰に關する件

昭和十七年七月二十五日評議員副會長中川吉造氏死去せられたるを以て弔詞及弔慰金を、同年八月四日評議員土方久徴氏死去せられたるを以て弔詞を呈したり。

會員の狀況に關する件

昭和十七年度末に於ける會員數は千五百三十三名又贊助員は三千二百三十四名にして前年度に比し會員は二十三名を増加し、贊助員は三十七名を増加したるも退會並に整理の結果二百七十五名を減じたり。

雜誌發行に關する件

機關雜誌「道路の改良」は用紙統制上更に其の紙數を減せられ且つ印刷費等値上の已むを得ざるありて編輯に困難を感じたるも努めて資料の選擇に意を用ひ時局に即應して内容の充實を計り以て所期の目的に副はんことを期したり。

第二十四回會計報告(自昭和十七年四月一日至同十八年三月卅一日)
昭和十七年度決算

歳入

一金參萬四千參百六拾圓七拾貳錢

總歲入金

内譯

金五千五百七圓

釀出金收入

金壹萬壹千參百六拾九圓貳拾九錢

納付金

金壹千六圓

印刷物頒布收入

金貳千參百拾參圓貳拾四錢

廣告料、雜收入

金貳千五百參拾壹圓參拾參錢

基本財産より生ずる收入

金參百九拾九圓八拾錢

特別積立金より生ずる收入

金八千圓

基本財産より繰入

金八百參拾四圓六錢

特別積立金より繰入

金貳千四百圓

借入金

歳出

一金參萬四千參百六拾圓七拾貳錢

總歲出金

内譯

金壹萬八百九拾四圓四拾貳錢

事務所費

金參百參拾八圓八拾壹錢

會議費

金貳萬貳千八百四拾參圓拾九錢

專業費

金貳百七拾四圓參拾錢

租稅

金拾圓

特別積立金

昭和十八年度歳入歳出豫算(自昭和十八年四月一日至同十九年三月卅一日)

一金四萬六百六拾圓

內 譯

金七 千 圓

金八 百 圓

金壹萬五千圓

金壹 千 圓

金參 千 圓

金八 百 圓

金貳 百 圓

金八千八百五拾圓

金四 千 圓

金拾 圓

歲 出

金四萬六百六拾圓

內 譯

金八千壹百五拾圓

金六 百 圓

金貳萬八千八百圓

金四 百 圓

金拾 圓

金貳千四百圓

金參 百 圓 豫 備 費

◎土木部課長事務打合會 六月十五日帝國鐵道會館に於て全國

土木部課長事務打合會を本會及河川協會、港灣協會と聯合主催の下に開催招待したる全國土木部課長及内務省土木關係官で總數百數十名であつた港灣協會々長道路改良會々長水野鍊太郎氏並に河川協會理事谷口三郎氏の挨拶があり後藤福岡縣土木部長の答辭があつた水野會長の挨拶並に後藤土木部長答辭左の如し。

水野鍊太郎氏挨拶

本夕は港灣協會、道路改良會並に河川協會の協同主催の下に此度會議の爲に御出席になりました皆様方をお招きした次第であります。

皆様方は承りますれば今朝八時より繼續して會議に臨んで居られたさうであります、其の御多忙中にも拘はりませず多數御出席下さいまして誠に有難く存じます。

この三協會は皆様方のお骨折に依りまして大體に於てそれら順調の進展を爲して居るのであります。

今や時局は重大であります、この時局に打勝つにはどうしても戦力増強に依らねばならぬことは申すまでもないのであります、而して戦力増強を爲すには港灣と云ひ道路と云ひ河川と云ふものが其の一翼を受持たねばならぬのでありますこのことに就きましては皆様方は職掌上それら御勉勵になつて居られる事と存

じます。

洪灣協會、道路改良會並に河川協會も其の一翼を擔つて官民表裏一體を爲して盡力して居るのであります。其の協會に對しまして御盡力願ふのは皆様方のお力に依らねばならぬと思ひますから、今後この重大なる使命を完ふする上に於ても何卒今後一層の御盡力を願ひたいと思ふのであります。

今夕は御招きをしましたが、時局柄でありまして物資の關係から思ふやうな御馳走を差上げることが出来ないで甚だ失禮に存じますが、斯う云ふ次第で一應御禮を申上げたいと云ふ趣旨に依つてお出でを願つた次第であります。この不行届きの點何卒御宥恕を願ひたいと思ひます。之を以て簡單ながら御挨拶と致しませう。(拍手)

福岡縣土木部長後藤季總氏答辭

一言御許しを頂きしまして一同に代りまして御禮を申上げたいと存じます。洪灣協會並に道路改良會、河川協會の三協會は土木の會のやうなものでありまして、この三協會の爲に吾々は常に指導せられ又御援助を受けまして吾々の仕事遂行上非常に御世話になつて居ることを常に感謝して居るものであります。吾々の仕事も殆ど三協會の御援助に依つてやつて居ると云つても過言ではないと考へるのであります。

然るに現下の事情は益々緊迫し、吾々は茲一年間に死ぬるか生

きるかの覺悟を以て働かねばならぬ次第であります、従つて吾々の仕事も益々重大となつて來たのであります。何卒將來共一層の御援助と御指導をお願ひする次第であります。今夕は吾々一同御寵招を受けまして誠に感謝する次第であります。

甚だ簡單でございしますが一言以て御禮を申上げます。尙ほ三協會の御發展の爲に乾盃致します。(乾盃)

◎米英擊滅決戰國民大會 六月九日比谷公會堂に於て大政翼賛會、翼賛政治會、東京市主催の下に開かれた。國民儀禮の後、詔書奉讀次で阿部座長の下宣言及決議を可決し、岡田衆議院議長下村宏博士の講演があつた。其の決議文は左の如し。

決 議

我等は戦局の現段階を直視し、一億總力を凝集し、益々熱鐵不動の覺悟を鞏め、山本元帥並に幾多忠烈なる護國將士の遺業を繼承し、誓つて米英を擊擢して聖戰の目的を完遂せんことを期す

◎本會評議員松本健次郎氏 松本氏は六月九日内閣顧問を仰せ付けられた。

◎中村不折氏 (太郎) 帝國藝術院會員中村不折畫伯は六月六日腦溢血の爲急逝した、享年七十八。

◎佐藤三吉氏 貴族院議員帝國學士院會員東京帝大名誉教授醫學博士佐藤三吉氏は六月十七日逝去さる、享年八十七歲。

- ◎近刊圖書雜誌 (寄贈交換)
- わたち (第六卷三號日本通運株式會社)
- 興土 (第五號)
- 港灣 (第二一卷五號)
- 警察協會雜誌 (第五一五號、第五一六號)
- 道路 (第五卷五、六號)
- 土木雜誌 (第一九卷五號)
- 都市問題 (第三六卷五、六號)
(麻生平八郎 || 大都市に於ける交通問題)
- モビールの節約方法 (全國乗合自動車運送事業組合聯合會)
- 科學技術動員 (第二卷五、六號)
- 自警 (四月號)
- 汎交通 (五月號)(シドニー市の交通)
- 土木學會誌 (第二九卷五號)
- 河川 (第二卷五、六號)
- 電氣通信學會雜誌 (第二七卷四號)
- セメント統制會誌 (第一卷二號)
- 水道協會雜誌 (第一二二號)
- 法律時報 (第一五卷五、六號新法律の解説特輯)
- 都市公論 (五月號)
- 觀光 (四月號)

- 發送電 (第三卷五號)
- 東大陸 (六月號)
- 斯民 (第三八編五號)
- 鐵道軌道統制會報 (五月號)
- 三田學會雜誌 (第三七卷四號)
- 大大阪 (第一九卷六號女子勤勞動員特輯)

